

○１２番 上野美咲君

泉中学校３年、上野美咲です。私は、行橋市の花について質問します。

私は行橋市の花が好きです。特に春の今川沿いは桜や菜の花がたくさん咲き、とても華やかで、行橋市のいいところの一つだと思います。ですが、春以外は殺風景に見えます。

私は、行橋市のまちを四季折々の花で華やかにしたいと考えています。例えば夏はヒマワリ、秋はコスモス、冬はアネモネのような花が咲けば華やかになると思います。

そして、手入れなどのお世話は、地域の人や学生、または幼稚園や保育園の子どもたちの体験というかたちで手伝ってもらえればいいと思っています。

まず、はじめに、現在、行橋市が行う花に関する取り組みと問題や課題について、お聞かせください。執行部はどのようにお考えでしょうか。

○後半議長 渡部稜君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

上野議員のご質問にお答えします。まず行橋市としましては、花いっぱい運動というのを長く行ってきております。これは、簡単に言いますと、花の苗を配布する事業です。花とみどりの会の御協力をいただきまして、春花壇用の花と、秋花壇用の花の苗を種から育てていただいております。私も実際に昨年参加したのですが、結構腰の痛くなる作業ですね。配布先は、小学校や中学校、公民館、それから花壇等を管理している団体に年２回、苗を配布させていただいております。

実績としましては、令和６年の実績で言いますと、１０８団体へ約１０万株の苗を配布いたしました。また、春花壇につきましては、花壇のデザイン性や管理状況を審査するコンクール等も実施しております。また、県のほうでは、一人一花運動というのを実際に行っておりまして、市もこれをやったださる方がいらっしゃった際には、市も関わるようになっております。

課題についてですが、草取りや水やりが大変だということ、それから人材不足といった問題、いわゆる携わる方々の高齢化ですね、若い世代の担い手といったものが、なかなかいないという現状があります。それから地球温暖化のせいですかね、苗そのものが暑さでなかなか育たない、そういった現状も実際にございます。

また、担い手不足と同じようになりますけども、花壇を維持してくださる団体もなかなか見つからない、そういった実情がございます。以上です。

○後半議長 渡部稜君

上野議員。

○１２番 上野美咲君

ありがとうございました。私は多くの方が花に興味を持ってもらうことが一番大事だと思っています。花をテーマにしたイベントの開催やフォトコンテストの実施、または行橋市内の多くの人の目に付く場所に花壇や花公園ができればいいなと思っています。また、利用しない時期の田んぼや畑などを利用し、1年中、行橋市が花いっぱいになることを望んでいます。

花を育てることは大変であり、無責任ではできないことは分かっています。今後、花に関する新たな取り組みの計画や方針があれば、お聞かせください。

○後半議長 渡部稜君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えいたします。本当に大変ありがたいご意見だと思います。アートの部分や田んぼや畑をどう使うとか、フォトコンテストだとか、こういったものができれば非常に素晴らしいなと思います。

一方で、議員もご承知のように、やはりそれを管理していったりするということで、どうしても担い手不足といった問題があります。ここについては、引き続き、今までは、例えば花と緑の会さん、これは5月号の市報にも、5ページ、6ページ辺りにも実際に掲載しております。かなり皆さん方、御活躍をいただいているのですが、ネット上でもぜひ見ていただければと思いますけれども、多世代にわたって、次世代につないでいく、そういったのをもうちょっと行政も皆さん方にPRをしていって、そして若い世代と一緒に多世代交流というかたちで、こういった花をもっと増やしていけたらなと私も思います。

1点、今川に桜があります。この桜も、もう35年以上経ちまして、どんどんソメイヨシノも古くなってきております。いま行橋市にある花をどうしていくのか、こういったことも引き続き行政としても考えて、お知恵をいただきながら前向きに取り組んでまいりたいと思います。以上です。

○後半議長 渡部稜君

上野議員。

○12番 上野美咲君

ありがとうございました。私は、きょうまで知らなかった取り組みや多くの問題や課題を知ることができました。今後は、私たち一人一人ができることを考え、多くの人へ伝えていきたいと思います。これで1つ目の質問を終わります。ありがとうございました。

2つ目の質問に移ります。2つ目は、行橋市の道の駅についてです。

この行橋市には、いいものがたくさんあります。コスモス、イチジク、モモ、カキ、いろいろあると思います。そんな中、私は、この行橋市のいいものたちをもっといろんな人に知ってもらうべく、道の駅をつくったらいいいと思います。

道の駅をつくるメリットは2つあります。

1つ目は、行橋市に住んでいるが特産品などを知らない、という人もいます。そんな人も道の駅をつくることによって知ることができるし、何より特産品を買ったりしてくれる人が増えると思います。

2つ目は、そもそも行橋市を知らない、という人たちについてです。私は、よく家族と出掛けののですが、知らなくて聞いたことのないまちに行きます。その時、よく見る道の駅があります。私はそのまちのことは知らないけれど、その道の駅は知っています。このように行橋市のことを知らない人も、あの道の駅がある場所、と覚えてもらえれば、行橋市の認知度も上がるはずですよ。

そこで、私は、次のことを質問したいです。

1つ目は、行橋市の特産品についてです。行橋市の特産品には、どのようなものがあるか、お尋ねします。執行部は、どのようにお考えでしょうか。

○後半議長 渡部稜君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

端的に申し上げます。ナシ、モモ、ブドウ、イチジク、それから海のものですとカキとかカニ、それからハモ、そういったものがございます。以上です。

○後半議長 渡部稜君

上野議員。

○12番 上野美咲君

ありがとうございました。

次は、道の駅をつくるには、どのような条件があるのか、そして日本全体、福岡県内に幾つあるのか、お聞きしたいです。

○後半議長 渡部稜君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

道の駅はですね3つの機能を備える必要があります。24時間利用できる駐車場やトイレなどの休憩機能、それから道路情報、観光情報などの情報提供機能、そして観光レクリエーション施設などの地域振興施設で、地域と交流を図る地域連携機能が求められ

る施設となっております。

それからいま現在、全国に1, 230箇所、福岡県内には17箇所の道の駅がございます。以上です。

○後半議長 渡部稜君

上野議員。

○12番 上野美咲君

ありがとうございました。

次は、特産品を知ってもらうべく、イベントについてです。特産品を知ってもらうべくイベントを行ってみてはどうかと提案します。現在、市で実施している特産品のPRイベントがあればお聞かせください。

○後半議長 渡部稜君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

いろいろなマルシェもいま様々な市民の方がやってくださっておりますけれども、行橋市としては、代表的なものはやはり産業祭、こすもっぺでもそうですが、産業祭だと思っております。以上です。

○後半議長 渡部稜君

上野議員。

○12番 上野美咲君

ありがとうございました。

最後に道の駅の整備予定についてです。家族でよく宗像の道の駅に行き、魚や果物などを買う機会があります。とても多くの方が賑わっており、行橋市にも魅力的な特産品が多くあるため、ぜひ道の駅をつくってほしいと考えます。そのため、今後、道の駅を整備する予定があるのかお聞かせください。

○後半議長 渡部稜君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

これは、実は過去から、こういったお話も何度か出てきたりもしたんですけれども、なかなか実現には至っておりません。そして、いま現在、道の駅をつくるという予定はありませんが、やはり議員がおっしゃるように、様々な大切な資源、そして誇れる資源がありますので、こういったものを効果的にPRする、そういった場、拠点といったものは、やっぱり必要なのかなという考えもあります。議員からいただいたご意見も踏ま

えたうえで、また内部でも検討させていただきたいと思います。以上です。

○後半議長 渡部稜君

上野議員。

○12番 上野美咲君

ありがとうございました。たくさんの取り組みをしていき、私もみんなのためにできることをしていきたいです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。